特集 平等と人権のための闘い
パレスチナYWCAは希望を捨てません

6面 2011年 憲法記念日に寄せる日本YWCAメッセージ
いのちの繋がりに「希望」を持ち続けて活動する

7面 ひろしまを考える旅2011 ご案内

The Young Women's Christian Association
YWCA

日本YWCAの使命（ミッション）
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々は幸いであるーマタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015
（1）非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
（2）若い女性のリーダーシップを養成する

6
JUNE 2011
No.702

www.ywca.or.jp

パレスチナの状況について書いてほしいと頼まれて、ナジャ・サイードの言葉を思い出しました。作家・劇作家のナジャは、高名な知識人であった故エドワード・サイードの娘でもあります。彼女はこう述べています。「言葉というのは時にとても力強いものになることがある。『パレスチナ』という言葉を聞くと、人は泣き出したくなる」と。彼女の戯曲『パレスチナ』の1年間にわたる上演を経て、今なおこの言葉は真実の響きを放っています。「パレスチナ」は具体的な地理上の場所、あるいは歴史的な場所ではなくなり、その代わりに多くの人にとって「平等と人権のための闘い」という理念を表すようになってきたのですから。

平等と人権のための闘い

パレスチナYWCAは希望を捨てません

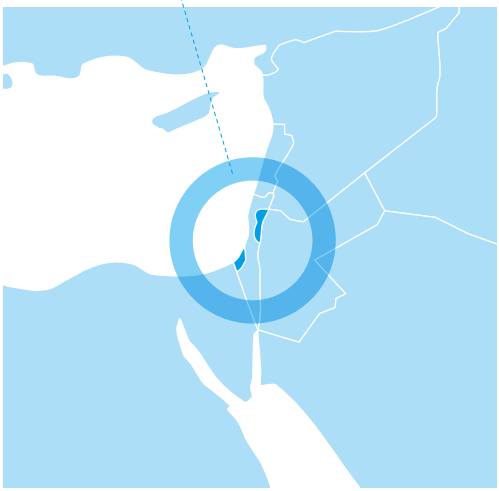
アルダ・アガザリアン Arda Aghazarian
ミラ・リゼック Mira Rizek
（パレスチナYWCA）

特集
Palestine

パレスチナYWCAは1893年、ジャッファの女性グループによって始められましたが、公式には1918年にエルサレムで設立されました。現在はエルサレム、ラマラ、エリコにある三つの地域YWCAと、ジャラゾンにある二つのコミュニティー・センターとアクバット・ジャベル難民キャンプから成っています。

「パレスチナYWCAは、自由で民主的なパレスチナ独立国家を目指す。その市民社会は、正義・平和・寛容・平等・人権と人間の尊厳の尊重・ジェンダー公正・表現の自由・社会的正義・多元的共存・文化的多様性を享受する」（2010–2015年の方針計画）。

パレスチナYWCAの使命は、生活のすべての分野で女性のリーダーシップを創り出すことで、設立以来これまで、幅広いプログラムと活動を行ってきました。その目的は、女性と少女をエンパワーすること、経済的機会の創出を通してその地位向上をはかること、そして女性と少女の意識を向上させ、彼女たち個人の権利や民族の権利擁護を共に行い支援することです。さらに、若者のリーダーシップや市民活動、教育文化活動を参加しやすいものにすることにも取り組んでいます。そうした教育文化活動には、児童教育や、さまざまなことを関連させながら事象の意味を学んでいく認知学習も含まれています。（2面に続く）



特集
special Issue
Palestine

「パレスチナの現実は、イスラエルによるパレスチナ人の土地の占領であり、現在の状況が生み出していることのすべてである。すなわち、分離壁による非人間的な状況、神の名と武力により私たちの土地を略奪するイスラエル人入植地、軍事検問所での屈辱、信教の自由の厳しい制限。エルサレムでのパレスチナ人の家屋の破壊・没収。難民という現実もある。彼らも自分たちの権利が実現されるのを待ち望んでいる。イスラエルの市民であるパレスチナ人が平等を享受するのを待ち望んでいるように。（『カイロス・パレスチナ－真実の時』より）

パレスチナのＹＷＣＡは、イスラエルによる軍事占領下にあるために、予測不能な閉鎖や移動の制限といったリスクにより、しばしば活動を妨げられることがあります。政治的状況や社会経済的状況の悪化は、他のすべての組織に影響するのと同じく、明らかにＹＷＣＡの活動にも影響します。さらにそうした状況の悪化は、大きな苦難が常にそこにあるのに状況が好転していかない紛争下の地域にあって、長期的な計画を立てることを不可能にします。

ＹＷＣＡが掲げる使命と目的により、ＹＷＣＡは広範の人々に尊敬される、地域社会発展のための組織という特別なアイデンティティを与えられてきました。ＹＷＣＡの権利擁護活動（アドボカシー）の根幹にあるのは、発展は平和と正義が共にあり、基本的人権の尊重があって初めて達成されるという信念です。

パレスチナＹＷＣＡは、東エルサレムＹＭＣＡと協働してジョイント・アドボカシー・イニシアチブ（ＪＡＩ）を立ち上げ、長きにわたって人々の権利に関わり、関心を寄せ、人道主義とキリスト教的価値観に基づいた「正義に基づく平和」のために活動してきました。世界中のＹＭＣＡとＹＷＣＡの運動・教会・教会基盤の組織・国連機関、その他の関係組織を結集して、政策決定者に影響を与え、イスラエルによる占領とそれによるすべての国際法違反行為を止めさせるような行動を促してきました。

ＪＡＩは、関心のあるＹＷＣＡとＹＭＣＡの会員がパレスチナを訪れ、ＹＷＣＡとＹＭＣＡのプログラムを支援する機会を提供すると同時に、若者の交流プログラムも行っています。その中には、世界中の若者が集まって、パレスチナの若者と共にイスラエルの占領による影響を経験し、見て回り、その証人となる「正義を求める旅（Journey for Justice）」もあります。

ＪＡＩはまた、「オリーブの木キャンペーン」でも知られています。このキャンペーンは、イスラエル軍や入植者によってオリーブの木が引き抜かれたり倒されたりしている地域や、畑が没収されそうな地域に、オリーブの木を植え直そうというものです。オリーブの木を植え直すことを通じて、パレスチナ人は希望を持ち続ける勇気と、平和構築へ向けて建設的に活動していくことを改めて確信する勇気を与えられるのです。

（翻訳協力・西　文子）

いのちのぬくもりを奪うもの

青木　恵子

特に何ごともなく1日が終わって、家族で夕食の食卓を囲む。3月11日以来、そんな平凡な日々の積み重ねのありがたさをつくづくと思う。そして浜岡原発を抱えるこの地では、それは偶然の結果であろうとも思わされる。

福島原発の事故を受けて、静岡でも原発に関する報告会や勉強会などが相次いで開かれて、人々の関心の高まりが感じられる。電力会社や行政への要請行動も多いが、大抵は「安全対策を強化します」という対応で、歯がゆい思いがする。万全な対策というのは不可能で、人間のやることには限界がある。何と言っても、いのちは「想定外」という言葉では片付けられない重みを持つ。

ある勉強会で、〈安全性におけるリスク〉＝〈確率〉×〈被害の大きさ〉という公式を教わった。被害が無限大の場合、確率をゼロにしない限りリスクも無限大になる。リスクがゼロになるのは確立がゼロのときだけ、つまり原発が完全に止まるか存在しない時である。「安全対策強化で確率ゼロをめざす」という時、ある日突然に住み慣れた土地から引き離され、日々のぬくもりのある生活を失って「原発難民」になった人たちを踏み台にすることは許されない。生活のぬくもりは、いのちのぬくもりだからである。

日本ＹＷＣＡは、１９７０年の全国総会以来『『核』否定の思想に立つ」を強調点として掲げ、その後１９８５年「いのちを選ぶ」を主題として課題を深めていった。その意味を今、改めて心に深く留めたい。そして、住む場所を奪われ、生活のぬくもりから追いやられる様は、パレスチナの人々のことにも今さらのように重く思いを重ね合わせる。いのちの犠牲もなく、1日1日の生活の営みが、平凡という言葉で表わされるほどの日のために祈りを合わせたい。

（静岡ＹＷＣＡ会員）

※5月6日菅首相が浜岡原発の運転停止を中部電力に要請しました。

パレスチナから―

同時代に生きる者の責任が問われている

川端国世 京都YWCA

昨年10月、久しぶりにパレスチナ西岸地区を訪れた。イスラエルは分離壁でパレスチナの土地に深く食い込み、あからさまに領土に編入し、パレスチナ人家屋の破壊や没収を行い、すさまじい数と規模の入植地拡大を平然と進めていることを目の当たりにした。これに対して、パレスチナ人は住居や農地や水資源を奪われ、完全自治は17％のみで83％がイスラエルの治安管理下にある。また、600以上の軍事検問所の存在で行動の自由が制限され、夫婦でさえ東エルサレムの身分証を持つ配偶者と西岸・ガザ地区の身分証を持つ配偶者が東エルサレムで一緒に生活することは不可能に近く、アパルトヘイトを想起させる状況に追い込まれている。「今も『ナクバ（大惨事）』は場所を変えて起こり続けている」とミラ・リゼック（パレスチナYWCA総幹事）は言う。これは「占領」の域を越えて「征服」ではないのかと思う。

突然家にやってきたイスラエル兵たちに、石を投げた容疑で拘束・投獄されている少年たちがいる。身に覚えがなく、取り調べ中の脅迫や拷問に耐えて否定し続けるが、ペニスに電流を流されるという過酷な拷問には耐えきれず、でっち上げの調書に署名をしてしまう。そして6カ月の刑期を言い渡されて投獄されている。その親は少年を救うために奔走するが、かなわない現実に無力感で打ちひしがれている。難民キャンプを案内・通訳してくれた青年は、パレスチナでこんなことが起こっているのに、なぜ世界は沈黙しているのか、と問う。

2008年冬、イスラエルは、人口過密なガザを軍事封鎖した上で無差別攻撃をした。白リン弾を家屋に打ち込まれた母親は重度のやけどを負いながら、抱いていた乳児が溶けていくのをただ見ているしかなかった。これは戦争犯罪で、国際法違反ではないのか、と訴える。

シオニズム*のイスラエルは、先住アラブ・パレスチナ人を虐殺し民族浄化を繰り返し、追放して難民とし、その土地を奪って領土として1948年に国家となった。パレスチナ人難民の帰還権は国連決議で認められているが、実行されず無視され続けている。しかし、イスラエルは、帰還法で世界中のユダヤ人に移民する権利とその後すぐに国籍を与える「ユダヤ人国家」である。かつて「和平プロセス」が幾度となく報道され、パレスチナの権利が確立されることに期待を寄せたが、その都度、アメリカをバックとするイスラエルが優位に立ちまわり、パレスチナの権利は譲歩させられ続けた。

東エルサレムのシェイクジャラ地区にパレスチナYWCAがある。隣家のパレスチナ人家族は強制退去を言い渡され、家財道具もろとも放り出され、入植者たちが占拠している。それに反対する昨年10月（あるいは「昨秋」）のシェイクジャラでのデモ＝**写真**＝に参加した時、ジミー・カーター元アメリカ大統領がやってきた。彼は著書でアメリカ・イスラエル公共問題委員会（AIPAC）の存在と、その圧力の下ではアメリカ議会や大統領候補も公衆の前では異論を発せられず、イスラエル政府の政策や行動のすべてを無条件に支持しており、これでは偏りのない議論と和平の仲介はできないと記している。

JAI主催「オリーブの実収穫プログラム」にも参加した。「オリーブの木キャンペーン」の苗木が植えられた畑が荒らされ、寄付者名が彫られた大理石盤が転がり、入植者の家がそこまで迫ってきている状況も見た。あるオリーブ農家の青年は、「イスラエルは土地を盗み、父を奪い、パレスチナ人の尊厳を踏みにじる。それに絶望して自らの土地から立ち去らせるのが『民主主義』イスラエルの作戦だ。自分はその罠にははまらない。オリーブ畑で働いて生きていく」と言った姿勢に、パレスチナ人の非暴力抵抗を見る思いがした。

パレスチナ人が訴えているのは、個々の犠牲と被害だけではない。人種主義・植民地主義・軍国主義に基づく力の支配による抑圧と歴史的不正義はあってはならないということであり、シオニズムのイスラエルによる「ナクバ」が「ホロコースト」と同様に人類・人道に対する罪だと国際社会が認識し、パレスチナに公正を取り戻すことだと思う。同時代に生きる者の責任が問われているのである。パレスチナの171市民団体（含、パレスチナYWCA）の連名で、イスラエルによるパレスチナの自決権承認と確立のために①占領の終結、②イスラエル領内におけるパレスチナ人の平等の承認、③難民の帰還権を求める「イスラエルに対するBDS（ボイコット・資本引揚・経済制裁）キャンペーン」が呼びかけられている。グローバルに各地で大変ユニークな運動が展開されている。

（写真：川端国世）

*パレスチナにユダヤ人国家をつくるイデオロギー

特集
special Issue
Palestine

なぎ倒されたオリーブの木

日本をはじめ、世界から贈られたオリーブの木が根こそぎに

イスラエル占領軍による、パレスチナ西岸各地のオリーブ園の破壊行為が依然として続いています。

今年2月22日の朝、イスラエル軍は、ベツレヘム近郊のイザット・アブ・ラティファイザットさん＝**写真**＝の畑にやって来るなり、電気のこぎりで木をなぎ倒した上、除草剤で根まで徹底的に枯らしていきました。「（山積みの）オリーブの木を直ちに片付けないなら、残りの木もすべて切り倒すぞ」というイスラエル部隊指揮官の脅し文句は、イザットさんの怒りを増幅させました。

「オリーブの木が切られるのを見るのは、まるで自分の心臓がえぐり取られるような思いだった」。40年来オリーブを育ててきたイザットさんは、JAIのメンバーにこう語りました。

山積みにされたオリーブの木
写真：JAI

引き抜かれたオリーブの根
写真：JAI

イスラエル軍は、続けてモハマド・アフメド・アブ・スベハさんの120本のオリーブの木も根こそぎにしました。それらの木は、JAIの「オリーブの木キャンペーン」第7期・第8期に、日本・オランダ・ノルウェー・英国・米国の寄付者により贈られたものでした。

後を絶たないこうしたイスラエルの行為は、街道沿いに針葉樹を植える政策によるものと思われ、畑に所有者がいることを知りながら、その所有権の確認を故意に怠っているのです。損害賠償請求と、イスラエルの各省庁への申し立ての準備をしていますが、イザットさんたちの心の傷と喪失は回復されることはありません。しかし、イザットさんは、決してあきらめず、新たなオリーブの木を可能な限り早く植え、受け継がれてきたオリーブの遺産と、大地と自分（人間）とのつながりを回復させることを心に決めています。

イザットさんの前向きな姿勢は、彼を支えるJAIのメンバーに勇気を与えるものでした。JAIの活動を支援する国際社会の協力を得ながら、これからもJAIはイザットさんたちを支援し、イスラエル人入植者や占領軍の破壊行為からオリーブ畑を守っていきます。

（JAI Newsletter より抜粋）

＊JAIから緊急行動の要請を受け、日本YWCAはパレスチナのオリーブ畑が破壊されたことに抗議して、3月9日に、イスラエル首相・在日イスラエル大使・在イスラエル日本大使宛に要望書を提出しました。（要望書は日本YWCAホームページに掲載。）

平和への祈りをこめて

パレスチナにオリーブの木を！

日本YWCAは、パレスチナの地に正義ある平和が実現することを願い、パレスチナにオリーブの木を送る「オリーブの木キャンペーン」に取り組み、2004年以降これまでに1543本のオリーブの木を贈りました。パレスチナの人々を勇気づけ、連帯して平和をつくり出すために、ご協力をお願いします。

3000円でオリーブの木1本を贈ることができます。

＊3000円には送金手数料が含まれます。
＊寄付者には証明書が発行され、植樹された場所にはプレートに寄付者の名前が刻まれます。
＊JAIによる証明書発行のため、振替用紙にお名前のローマ字表記を必ずご記入ください。

振込先（郵便振替）
加入者名：財団法人　日本YWCA
口座番号：00170-7-23723
＊振込用紙の通信欄に「オリーブの木キャンペーン」と記入ください。

パレスチナ関連図書 読んでみませんか！

〈鏡〉としてのパレスチナ―ナクバから同時代を問う
ミーダーン〈パレスチナ・対話のための広場〉編
現代企画室　2520円

ホロコーストからガザへ パレスチナの政治経済学
サラ・ロイ／Sara Roy 著
岡真理・小田切拓・早尾貴紀 編訳
青土社　2730円

沈黙を破る
―元イスラエル軍将兵が語る“占領”
土井敏邦 著　岩波書店　2415円

イラン・パペ、パレスチナを語る
―「民族浄化」から「橋渡しのナラティヴ」へ
イラン・パペ／Ilan Pappe
ミーダーン〈パレスチナ・対話のための広場〉編
つげ書房新社　2940円

アラブ人でもなくイスラエル人でもなく
―平和の架け橋となったパレスチナ人牧師
リア・アブ・エル=アサール／Riah Abu El-Assal 著
輿石勇 訳　聖公会出版　2100円

本の紹介

『要石:沖縄と憲法9条』
C・ダグラス・ラミス
晶文社　1900円+税

1月22日、ダグラス・ラミスさんを新潟に迎え、「基地は『沖縄問題』ではなく、本土の問題!」と題して「ナインにいがた」(新潟YWCAは賛同団体)主催の講演会を開いた。

ラミスさんの講演に先立ち、「小学生が100人だったら」と題してコントが演じられた。1人で75個のランドセルを担がされている小柄な子どもが「ネェ助けてよ」と声をあげるが、周りの子は「ヤダよ」「僕たち今、ランドセル反対運動しているからそれが実現するまで待ってね」と過ぎ去る、という内容である。ラミスさんは「Oh!　このこと話そうと思ったら盗まれた」と感心しながら?　笑っていらした。

さて、本のタイトルにある「要石」とは、石を積み重ねてアーチを建築する時に使われ、アーチが崩れようとする力を固める力に替える石である。では、もし沖縄が要石なら、その比喩はどんな現実に基づいているか。憲法9条をなくすのは反対だが、米軍が近くにいないと不安—この矛盾する二重意識が崩れない答えは沖縄だ。日米安保条約から生まれる基地を「遠い」沖縄に置き、基地問題を「沖縄問題」と呼ぶことで、なるべく考えないでいられる。ラミスさんは、新潟への基地移設案を披露し勉強会を開けば、沖縄の人の心に大きく響くだろうと言われた。本書を読んで、真剣に考えるチャンスとしたい。

日本YWCAビジョン2015推進委員
横山由美子

第55回国連女性の地位委員会（CSW55）
世界YWCA代表団の一員として

札幌YWCA　吉田亜希

毎年2月～3月、国連女性の地位委員会（Commission on the Status of Women、以下CSW）の会合がニューヨーク国連本部で開催され、加盟45カ国の政府代表が、ジェンダー平等の達成と克服すべき課題や女性の地位向上のための国際的指針と施策について協議します。会期中は世界中からNGOが結集し、市民社会の声を届けるために意見書の提出やロビイングを行い、政府間会議と並行してワークショップ等多数のイベントを開催します。第55回目の今年は、2月22日～3月4日、「雇用と適切な仕事への女性の平等なアクセスの促進を含む、教育・研修・科学技術への女性と少女の参加とアクセス」をテーマに、200を超えるイベントが行われました。

1946年のCSW設立に尽力した世界YWCAは、女性の権利拡大を世界的に推進するための場としてCSWを重視し、世界各地のYWCAから出席者を募って、代表団を派遣しており、今回日本YWCAからは、福嶋由里子さん（日本YWCA運営委員）、小山千優さん（横浜YWCA）、吉田亜希（札幌YWCA）の3名が参加しました。今年はニャラザイ・グンボンズバンダ世界YWCA総幹事率いる20名を越える代表団が、北米、中南米、アジア・太平洋、北欧、中東、アフリカと、国籍も年代も多彩なメンバー編成の強みを生かし、政府間会議、地域・テーマ別会合、各国政府主催のブリーフィング等に手分けして参加し、情報収集とロビイングを通じて、会期末に採択される合意結論の文言に世界YWCAの主張が反映されるよう働きかけました。また、ワークショップを主催・共催し、各種イベントに積極的に参加して、世界YWCAの存在感を広くアピールしました。代表団には、チームの一員としての役割に加えて、各自が外交官・アドボケートとして、主体的に行動することが期待されているのです。

今回初めてCSWに参加させていただいて、世界YWCAのワークショップで堂々とファシリテーターを務める若い女性リーダーの活躍を目の当たりにし、大変良い刺激を受けました。ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関「UN Women」設立式典という歴史的な瞬間に立ち会い、長い伝統を持つブルックリンYWCAを表敬訪問したのも忘れられない経験です。YWCAという国連経済社会理事会の諮問資格を持つ国際NGOの会員だからこそ、与えられるチャンスです。特に若い女性の皆さん、来年はぜひ参加してみてください。そしてニューヨーカー風に言えば、”Enjoy!”

2011年 憲法記念日に寄せる日本YWCAメッセージ

いのちの繋がりに「希望」を持ち続けて活動する

若葉が薫り、いのちの息吹に満たされるこの季節を、私たちは深い悲しみと痛みの中で迎えています。

3月11日に起きた東北地方太平洋沖地震と津波によって多くのいのち、大切にしてきたものを一瞬にして失った人々がおられます。また、直後の福島第一原子力発電所の大事故によって、福島県や近隣県のみならず、地球規模の放射能汚染の広がりの恐怖に包まれています。

これらの自然災害と人災を通し、あらためて私たち一人ひとりが今、生かされていることを謙虚に受け止め、今後私たちが向かおうとする道となすべき業について、立ち止まって考える機会を与えられたと感じずにはおられません。

●

私たち日本YWCAは、1970年に「『核』否定の思想に立つ」を活動の強調点に掲げました。そこには単に核兵器否定だけでなく、科学技術の発展によって豊かになった生活の在り方を問い直すという決意が込められていました。人間や自然の根底を危うくする「原子力の平和利用」に「否」を唱え、人間と自然が向き合った生き方を取り戻すための祈りであり、宣言でもありました。脱原発を訴えてきた多くの人たちが予測してきた事故が現実となった今、私たちはさらに声を大きくして、原子力に依存しないエネルギー政策の転換を日本政府に強く求めていく姿勢です。私たちは、先輩たちの祈りと決意を心に刻み、すべてのいのちを愛しむ生き方に立ち返ろうと、政治に携わる人々に呼びかけ、同じ思いを抱く人々と手をつなぎ、その輪を広げる努力をしたいと思います。

●

経済優先で進められた原子力政策の下には、軍事への転用やいのちの尊厳が踏みにじられた状況があります。沖縄への基地集中をはじめとする日本の軍事政策、歴史を歪曲した歴史教科書や「日の丸」「君が代」の強制等に象徴される日本の教育政策の下にも同じ状況がみられ、これらの国の政策が根底でつながっていることに気づきます。私たちが今、過去・現在・未来へと受け継がれるいのちの繋がりの中で生かされていることにもう一度立ち返るならば、いのちを軽視するこれらの国策の過ちを黙って見過ごすことはできません。私たちは、「女性と子どもたちの安全と安心」をキーワードにして、いのちの繋がりが途切れることなく続く道を拓く使命があるからです。

●

日本国憲法の前文には、「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならない」と記しています。

多くの人々が絶望感に苛まれるような状況下にあります。しかし、私たちは、この憲法前文に記された言葉に、次代の子どもたちのために、いのちが愛しまれる世界をつくり出すという「希望」を見出し、私たち日本YWCAのビジョンと重ね合わせます。

憲法記念日のこの日、私たち日本YWCAは、多くの人々とともに、「希望」を持ち続けて活動したいと願い、進みたいと思います。

2011年5月3日

日本YWCA　会　長　　俣野　尚子
総幹事　　西原美香子

種

あなたがたはわかれ道に立ってよく見、いにしえの道につき良い道がどれかを尋ねてその道に歩み、そしてあなたがたの魂のために安息を得よ。

（エレミヤ書6章16節）

この春、退職に伴い引越しを頼んだ時のことです。寒風吹きすさぶ中、懸命に働いてくれた若者にカステラをふるまいました。最後に一切れ残ったので「どうぞ！」と言うと、すかさず一人がナイフをとって4つに切り分けました。韓国の青年でした。皆に笑顔があふれ、温かい空気がふわっと流れました。一方、東北の震災直後でトイレットペーパーやガソリンを買うために行列をする、東京の悲しい現実を目の当たりにし、この違いは一体、何だろうと考えさせられました。

今、私たちは「わかれ道」に立たされています。これまでのライフスタイルを考え直すと共に、私たちの心をどこに向けるか、問われています。「私」ではなく「私たち」に、「強さ」ではなく「弱さ」に心を傾け共に生きられた主イエスの生涯を、改めて覚えます。地震直後、安否を問う電話に、「物はいらん！　希望を届けに来てくれ！」と叫んだ方がいたと聞きました。人間の存在そのものが希望である、そういう人間らしい生き方を取り戻し、同時代を一緒に力強く歩みましょう！

寺島順子
日本YWCA運営委員

日韓ユース・カンファレン2011のお知らせ

日本と韓国のユースメンバーが寝食を共にしながら日韓で共通する問題に対し一緒に取り組むプログラムです。今年は8月30日(火)～9月2日(金)(仮)に韓国で行う予定です。今後、詳細を日本YWCAホームページに掲載していく予定でので、ぜひご覧ください！

実行委員からのメッセージです。

- 去年から2度目の参加です。日韓の仲間たちと問題をシェアし、腹を割った話し合いを通じて良いチームを作っていきたいです。 実行委員長　堀添里緒
- 頼りない副委員長ですが、みんなで楽しく日本と韓国について学び、そして考えるものにできるよう、委員長を支え頑張ります! 副実行委員長　小山千優
- 初めての委員にドキドキワクワクしています。みんなでかけがえのない時間を過ごしたいです。 小林真奈
- 実行委員みんなでこの日韓ユース・カンファレンスがよりよいものになるよう頑張りますので、よろしくお願いします。 田中浩子
- 昨年日韓ユースの間に生まれた真の友情をさらに深め、継続していけるよう、微力ながらお手伝いします。よろしくお願いします。 西山奈央子
- 唯一地方から委員として参加させていただきます。このプログラムを通じてたくさんの人との出会いを楽しみたいです。 樋口春菜

ひろしまを考える旅2011 ご案内

憶(おぼ)えておく　伝えていく

核のない、新しい世界に向かって

東日本大震災によって引き起こされた福島原発事故は、最も深刻なレベル7と評価されました。避難を余儀なくされた多くの方々は、目に見えない放射性物質への不安の中にいます。少し離れた私たちも同じです。そして世界中が注目し、脱原発の声も高まっています。この放射性物質とは核のことです。「ひろしまを考える旅」は40年以上の歴史を持ち、広島・長崎の原爆について学び、私たちができることを考えてきました。それは、命を大切にする新しい生き方を選びたいという願いです。一緒に考えましょう。私たちの選びは、未来の子どもたちにつながっているのですから。

■期間：2011年8月8日（月）～10日（水）
　＊オプション参加　8月8日（月）～11日（木）午前9時解散

■会場：集合・開会：広島国際会議場（広島市中区中島町1-5　平和記念公園内）
　宿泊・会場：ホテル八丁堀シャンテ（広島市中区上八丁堀8-28）

■スケジュール

8月8日（月）	12:30／現地集合　→　開会　→　広島平和記念資料館見学 →　交流会
8月9日（火）	“憶えておく”　プログラム・フィールドワーク　被爆証言／碑めぐり →　分かち合い　→　グループワーク「思い」を伝えるために
8月10日（水）	“伝えていく”　プログラム・ワークショップ　→　思いを伝える →　閉会　→　12:00／現地解散 オプション　宮島を楽しむ／岩国を訪ねる
8月11日（木）	9:00／チェックアウト・解散

■憶えておくプログラム「フィールドワーク」：
①岡ヨシエさんの体験　②被爆した十字架と復興　③文学から考えるひろしま
④在日韓国・朝鮮人被爆者のあゆみ　⑤中国人被爆者の足跡

■オプション　プログラム：
①「世界遺産　宮島を楽しむ」（観光）　②「岩国を訪ねる」（プログラム費別途　実費）

■対象：中学生以上、このプログラムに関心のある方どなたでも。

■費用：

● 中学・高校生	2泊3日	18,500円、	オプション参加	3泊4日	26,500円
● 大学生・大学院生	2泊3日	20,500円、	オプション参加	3泊4日	30,000円
● 一般	2泊3日	23,500円、	オプション参加	3泊4日	33,500円

注1)申込金5000円を含む。
注2)費用には、プログラム費・宿泊費・食費・フィールドワーク交通費・保険料が含まれます。
注3)留学生参加費補助制度があります。詳細は日本YWCAまでお問いあわせ下さい。

■定員：85名（定員になり次第締切）

■申し込み方法：
(1)申込書を郵送で日本YWCAまでお送りください。
　費用は全額一括で、郵便振替でお振込ください。
　郵便振替番号：00170-7-23723　（財）日本YWCA
　※振込通信欄に「ひろしまを考える旅」とご記入ください。
(2)申し込み締め切り：6月30 日（木）

■ボランティアリーダー募集中：
中学生高校生参加者のサポートやプログラム運営をお手伝いしてくださるリーダーを募集中です。30歳以下の方。参加費10,000円を補助いたします。

主催：日本YWCA
　〒101-0062　千代田区神田駿河台1-8-11　東京YWCA会館302号

エンパワーするNGO
YWCA

女性と子どもの安全と安心のために

日本YWCAは、東北地方太平洋沖地震と津波、原発事故による被災者、ことに女性と子どもたちのニーズに応えるため、国内外のYWCAおよび他団体と協働して、「女性と子どもの安全と安心」をキーワードに、被災者支援の活動に取り組んでいます。支援活動の詳細は、本号付録「被災者支援活動報告号」をご覧ください。

海外のYWCAから祈りと支援のメッセージが届いています。

韓国YWCAは、3月3回にわたり、ソウルの繁華街ミョンドンにおいて、被災者支援の募金キャンペーンを実施＝写真上＝。その折、街ゆく人々に日本へのメッセージを書いてもらった「希望のメッセージ」（A4サイズ 17ページ分）が、日本YWCAに届きました。

成都YWCA（中国）からは、成都YWCAに集う子どもたちからの支援の手紙＝写真右下＝や折り鶴が届きました。

これらのメッセージは、現在仙台YWCA会館に展示しています。

『泉へのみち 今井万里遺稿集』を刊行して

松山YWCA

『泉へのみち　今井万里遺稿集』は、松山YWCA創立25周年を記念して2010年のクリスマスに刊行、その500冊は今井万里先生を良くご存じの皆さまにお贈りしました。

今井万里先生は、大阪YWCA会館内の寄宿舎に最年少で入寮したことを出発点に、牧会者への道を歩まれ、京都丸太町教会伝道師・副牧師、松山東雲学園宗教主任、日本YWCA総幹事、鎌ヶ谷教会初代牧師、晩年は三津教会協力牧師、松山YWCA顧問としてご指導くださいました。

ご召天10年を経て、86年の生涯で丁寧に残された、たくさんの資料・原稿・手作り品・写真などを整理して、私たちの念願であった遺稿集のための編集委員会を組織しました。

まず、遺稿集への思いやイメージを確認、印刷所の専門的なアドバイスをいただき、本格的に動き始めたのは2009年秋でした。私たちは編集を進めながら、先生の深い信仰と、優しく温かい、時には厳しいご指導の賜物に、心から感謝しました。最後のときまで女性の牧会者として、文書伝道に励まれた先生のお心はその文章にも偲ばれます。

「YWCAは、人と人とが出会う場であり、人々が育てられていく場、人々が力を合わせて共に仕えていくところ、まさしくYWCAは人である」。

私たちは先生の教えを胸に、YWCAのキリスト教基盤に立ち、平和を創り出していく者として、みんな仲良くをその使命に用いられ、これからも活動したいと願います。

松山YWCA編集委員会

ご協力ありがとうございます

賛助費
田中蘭子　金剛静慧　岡野フミ子
藤野尚子　松田和子　山田久美子
芳川雅美　湯前知子　酒井真紀子

事業支援寄付
中島　睦　梶山順子　鹿野幸枝
中村紀子　実生律子　川口米子
横浜英和女学院高校
東京YWCA　匿名3名

平和教育資金
藤野尚子　横山由美子
熊本YWCA

国際協力募金（パレスチナYWCA支援募金）
梶山順子

（ハイチ大地震被災者支援募金）
横浜共立学園

（オリーブの木キャンペーン募金）
大沢雄一　岡本　功　高橋喜久江
杉山知子　杉山　普　富岡美知子
田中倍子　俵　恭子　野々村耀
永井千鶴　中島　睦　藤野尚子
松田和子　三井貞子　森恵津子
丹野竹子　湘南YWCA
ケアハウスシャロン千里聖日礼拝

（国際協力募金）
熊本YWCA

（世界YWCA総会派遣募金）
毛利亮子　手島千景　俣野尚子
沖縄YWCA　熊本YWCA
弘前YWCA　釧路YWCA
平塚YWCA　匿名1名

（ワンコイン募金＆全国メッセージキャンペーン）
個人　8、地域YWCA　5

クリスマス献金
日本キリスト教団静岡教会
日本キリスト教団頌栄教会
捜真女学校高等学部・中学部
東洋英和女学院中高部宗教委員会
東洋英和女学院中高部母の会
日本キリスト教団聖ヶ丘教会
弘前学院聖愛高校宗教部
普連土学園中学校高等学校宗教委員会

（2011年4月20日現在　敬称略）

※日本YWCA被災者支援募金への寄付者名は付録の「被災者支援活動報告号」に掲載させていただきます。

発行所　財団法人日本YWCA
〒102-0074　東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
office-japan@ywca.or.jp

【駿河台オフィス】
〒101-0062千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121/FAX 03・3292・6122

編集発行人 鈴木伶子
振替　00170-7-23723（毎月1日発行）
定価1部　150円
年間購読料　1,260円（送料込）